

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年2月13日

【四半期会計期間】 第86期第3四半期(自平成26年10月1日至平成26年12月31日)

【会社名】 株式会社駒井ハルテック

【英訳名】 KOMA IHALTEC Inc.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 田中進

【本店の所在の場所】 大阪市西区立売堀四丁目2番21号

【電話番号】 06 (4391) 0811(代)

【事務連絡者氏名】 取締役 中村貴任

【最寄りの連絡場所】 東京都台東区上野一丁目19番10号

【電話番号】 03 (3833) 5101(代)

【事務連絡者氏名】 理事 藤枝伸明

【縦覧に供する場所】 株式会社駒井ハルテック本社
(東京都台東区上野一丁目19番10号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第85期 第3四半期 連結累計期間	第86期 第3四半期 連結累計期間	第85期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (百万円)	20,354	29,290	30,036
経常利益 (百万円)	7	327	418
四半期(当期)純利益 (百万円)	1	315	401
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	672	635	750
純資産額 (百万円)	24,481	24,763	24,401
総資産額 (百万円)	45,445	51,166	49,577
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	0.03	6.39	8.14
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	53.87	48.40	49.22

回次	第85期 第3四半期 連結会計期間	第86期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	0.89	2.75

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による経済・金融政策を背景に、企業収益や雇用環境の改善が進み緩やかな回復基調が続きました。しかしながら、円安による物価上昇などにより個人消費に弱さが見られ、また、海外経済の下振れリスクなどの懸念もあり、先行き不透明な状況で推移いたしました。

橋梁・鉄骨業界におきましては、橋梁は、新設橋梁の発注量は前年同期を下回っており、鉄骨は、首都圏を中心に再開発計画に活発な動きが見られたものの、労務費・材料費の高騰などにより計画の見直しや延期が散見される状況で推移いたしました。

このような環境のなか、鋭意受注活動を展開した結果、当第3四半期連結累計期間の受注高は総額250億1千5百万円（前年同四半期比0.3%減）を確保いたしました。また、売上高は、操業が順調に推移したことにより292億9千万円（同43.9%増）となりました。損益につきましては、営業利益2億7千万円（前年同四半期は9千5百万円の損失）、経常利益3億2千7百万円（同7百万円の利益）、四半期純利益3億1千5百万円（同1百万円の利益）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

橋梁事業

当第3四半期連結累計期間の受注高は、国土交通省中部地方整備局・平成26年度名二環かの里1高架橋鋼橋脚工事、埼玉県・社会資本整備総合交付金（改築）工事（上武大橋上部工A1～P3）他の工事で111億2百万円（前年同四半期比7.5%減）となりました。

売上高は、阪神高速道路株式会社・守口ジャンクション鋼桁及び鋼製橋脚その他工事、埼玉県・道路改築工事（（仮称）6号橋上部工）他の工事で114億3千4百万円（同42.8%増）となり、これにより当第3四半期連結累計期間末の受注残高は158億9千2百万円（同3.3%減）となっております。

鉄骨事業

当第3四半期連結累計期間の受注高は、京橋二丁目西地区市街地再開発事業、（仮称）日本橋二丁目地区再開発事業A街区工事他の工事で124億9千2百万円（前年同四半期比0.3%増）となりました。

売上高は、新・新ダイビル（仮称）新築工事、（仮称）住友不動産三田ビル計画他の工事で167億9千9百万円（同41.2%増）となり、これにより当第3四半期連結累計期間末の受注残高は150億6千5百万円（同2.9%増）となっております。

その他

当社は、その他の事業として風力発電・メガソーラー架台等による環境事業および大阪市西淀川区にある大阪事業所の未利用地部分等について賃貸による不動産事業を行っております。また、連結子会社において印刷事業等を行っております。

当第3四半期連結累計期間の受注高は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構より受注した風車建設工事他の工事で14億2千万円（前年同四半期比124.0%増）となりました。

売上高は、不動産事業・印刷事業等を含め10億5千6百万円（同133.1%増）となり、これにより当第3四半期連結累計期間末の受注残高は15億4千万円（同139.0%増）となっております。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、総資産は前連結会計年度末より15億8千8百万円増加し511億6千6百万円となりました。

資産の部では、現金預金が30億9千8百万円減少したものの、電子記録債権が38億2千3百万円増加したことなどにより、流動資産が15億8千万円増加し、291億9千8百万円となりました。固定資産は8百万円増加し、219億6千8百万円となりました。

負債の部では、工事損失引当金が6億6千6百万円減少したものの、支払手形・工事未払金が8億3千8百万円増加したことなどにより、流動負債が2億2千8百万円増加し、173億7百万円となりました。固定負債は90億9千5百万円となり、負債合計は12億2千6百万円増加し、264億3百万円となりました。

純資産の部では、その他有価証券評価差額金が3億1千3百万円増加したことなどにより、純資産は3億6千2百万円増加し、247億6千3百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は2千万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	99,525,000
計	99,525,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	49,727,091	同左	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は、1,000 株であります。
計	49,727,091	同左		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年12月31日		49,727		6,619		6,273

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期末日現在の「議決権の状況」については、株式名簿の記載内容が確認出来ないため、直前の基準日(平成26年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 455,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 48,270,000	48,270	
単元未満株式	普通株式 1,002,091		
発行済株式総数	49,727,091		
総株主の議決権		48,270	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が4,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数4個が含まれております。

2 「単元未満株式」の普通株式には、当社所有の自己株式878株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社駒井ハルテック	大阪市西区立売堀四丁目 2番21号	455,000		455,000	0.91
計		455,000		455,000	0.91

(注) 上記のほか株主名簿上は、当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株(議決権の数1個)あります。

なお、当該株式数は「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に含まれております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	5,578	2,480
受取手形・完成工事未収入金	16,973	19,327
電子記録債権	353	4,177
未成工事支出金等	569	1,090
その他	4,152	2,131
貸倒引当金	9	9
流動資産合計	27,617	29,198
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物（純額）	5,443	5,213
機械・運搬具（純額）	1,123	1,025
土地	10,613	10,613
その他（純額）	283	270
有形固定資産合計	17,464	17,122
無形固定資産		
	98	84
投資その他の資産		
投資有価証券	4,021	4,389
その他	470	465
貸倒引当金	94	93
投資その他の資産合計	4,397	4,761
固定資産合計	21,960	21,968
資産合計	49,577	51,166

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金	9,290	10,128
短期借入金	3,678	3,675
未払費用	237	275
未成工事受入金	1,523	961
工事損失引当金	1,197	531
引当金	213	195
その他	939	1,539
流動負債合計	17,079	17,307
固定負債		
社債	1,210	2,665
長期借入金	1,823	1,470
繰延税金負債	2,458	2,601
退職給付に係る負債	1,861	1,970
引当金	343	16
その他	400	371
固定負債合計	8,096	9,095
負債合計	25,176	26,403
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,619	6,619
資本剰余金	8,233	8,233
利益剰余金	8,491	8,534
自己株式	116	117
株主資本合計	23,228	23,270
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,328	1,641
退職給付に係る調整累計額	156	149
その他の包括利益累計額合計	1,172	1,492
純資産合計	24,401	24,763
負債純資産合計	49,577	51,166

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
完成工事高	20,354	29,290
完成工事原価	18,710	27,213
完成工事総利益	1,643	2,076
販売費及び一般管理費	1,739	1,806
営業利益又は営業損失()	95	270
営業外収益		
受取配当金	76	91
受取家賃	26	32
還付加算金	-	14
材料屑売却益	44	36
雑収入	31	24
営業外収益合計	179	199
営業外費用		
支払利息	56	64
社債発行費	-	59
支払手数料	18	17
雑支出	1	0
営業外費用合計	76	141
経常利益	7	327
特別利益		
助成金収入	2	-
その他	0	-
特別利益合計	3	-
特別損失		
固定資産除売却損	4	0
投資有価証券売却損	0	0
その他	-	0
特別損失合計	4	0
税金等調整前四半期純利益	6	327
法人税、住民税及び事業税	19	27
法人税等調整額	15	15
法人税等合計	4	12
少数株主損益調整前四半期純利益	1	315
四半期純利益	1	315

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1	315
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	-	7
その他有価証券評価差額金	670	313
その他の包括利益合計	670	320
四半期包括利益	672	635
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	672	635
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	
(会計方針の変更)	
<p>「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、割引率の決定方法を割引率の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。</p> <p>退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。</p> <p>この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が74百万円増加し、利益剰余金が74百万円減少しております。なお、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。</p>	

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	
原価差異の繰延処理	<p>操業度等の変動に起因して発生した原価差異につきましては、原価計算期間未までにはほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産(その他)として繰延べております。</p>

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
受取手形	百万円	1百万円
支払手形		57

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
減価償却費	440百万円	427百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	99	2.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金
平成25年11月13日 取締役会	普通株式	98	2.00	平成25年9月30日	平成25年12月10日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

自己株式の取得

当社は、第2四半期連結累計期間において、取締役会決議に基づき、自己株式235,000株、59百万円を取得いたしました。なお、第2四半期連結会計期間末における自己株式は442,443株、112百万円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	98	2.00	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金
平成26年11月12日 取締役会	普通株式	98	2.00	平成26年9月30日	平成26年12月10日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	橋梁事業	鉄骨事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	8,005	11,896	19,901	453	20,354		20,354
セグメント間の内部売上高 又は振替高				82	82	82	
計	8,005	11,896	19,901	535	20,437	82	20,354
セグメント利益又は損失()	470	79	390	137	528	623	95

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、環境事業及び不動産事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額 623百万円には、セグメント間取引消去 6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 617百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	橋梁事業	鉄骨事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	11,434	16,799	28,233	1,056	29,290		29,290
セグメント間の内部売上高 又は振替高				73	73	73	
計	11,434	16,799	28,233	1,130	29,364	73	29,290
セグメント利益	497	353	850	114	965	694	270

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、環境事業及び不動産事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額 694百万円には、セグメント間取引消去 6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 688百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	0円03銭	6円39銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	1	315
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1	315
普通株式の期中平均株式数(千株)	49,426	49,272

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第86期(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)中間配当について、平成26年11月12日開催の取締役会において、平成26年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行なうことを決議いたしました。

配当金の総額	98百万円
1株当たりの金額	2円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成26年12月10日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 2月12日

株式会社駒井ハルテック
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	林	由	佳	印	
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	入	山	友	作	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社駒井ハルテックの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社駒井ハルテック及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。